

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076700196
法人名	医療法人 弘医会
事業所名	グループホーム弘医荘 (ユニット名 1)
所在地	福岡県朝倉郡筑前町山隈842番地の1
自己評価作成日	平成23年9月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成23年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年12月、当法人敷地内にグループホーム新築、引越しを行った。木のぬくもりがあり、天窓が設けられ全体が明るい。入居者が過ごしやすい空間造りになっている。周辺は田園風景、四季折々の散歩が楽しめる。当法人の施設(ディケア、託児所、有料老人ホーム)との交流を取り入れている。入居者同士の思いやり、助け合いの場面が多く見られる。陶芸展示会も今年で8回目、ボランティアの先生による陶芸教室では入居者の生き生きした表情が見られ、月一回の三味線、スタッフの琴の演奏も楽しみにされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成14年12月に開設され、来年は10年目を迎える病院に併設したグループホームである。昨年、ホームが新築移転した際に、「家庭的な生活の中で、笑顔、安らぎと、生きがいを共に築いていきながら、地域との連携、交流を大切にする。」との理念に見直しを行い、全職員が利用者本位の介護に取り組んでいる。ボランティアの協力のもとで陶芸教室を毎週行っており、その集大成として町の施設で毎年陶芸作品展を行っている。今年8回目を迎えた作品展は、ご家族や町の担当者、地域の方の協力で成功を収めている。働く職員も、この仕事・このホームが好きで働いていると話しており、昨年の離職者はおらず、法人内での移動もほとんど無く、馴染みの職員が利用者の立場に立った利用者本位のケアを行い、また、地域に密着した運営を行っているグループホームである。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当グループホーム独自の理念に基づき、意識しながら日々の介護に取り組んでいる。又、ミーティングなどで、それぞれの思いを共有し、実践につなげている。事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。ミーティングの中で理念に基づくケアの統一を図っている。	昨年12月にホームが新築移転したのを機に、「家庭的な生活の中で、笑顔、安らぎと、生きがいを共に築いていながら、地域との連携、交流を大切にする。」との理念をスタッフ全員で話し合って作り上げた。ホーム内に掲示するとともに、職員の名札の裏にも記載しており、常に確認することが出来ている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、隣接するデイケア、託児所、有料老人ホームとの交流は行っている。地域の方々との交流は、課題の一つである。	ホームは、母体病院に併設して田園の中に立地しており、近隣に民家が少ないが、小学校の運動会に行ったり、朗読や美容・陶芸等のボランティアを定期的に招いたりして、地域に開かれたホームとなるように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員の中で5名、キャラバンメイトがいる。管理者は、地域の中で月に一回、キャラバンメイトとして活動している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年度始めにテーマを決め、司会は輪番制で事業所で取り組み、内容を率直に報告。報告のみにとどまらず、会議のメンバーの中から活発な意見をもらい、前回の会議の内容を再確認し、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は、町の福祉課・包括支援センター・区長・民生委員・家族・利用者本人の参加で2ヶ月ごとに行われている。ホームと地域の現状を確認しながら、介護保険をはじめとした高齢者に関わる制度を学んだりしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では毎回出席していただき、陶芸展示会も協力してもらっている。管理者は町の独居老人、訪問ボランティア、キャラバンメイトとして町の担当者と連携を結んでいる。毎月一回、町の広報、議会だよりの朗読、CD配布してもらっている。	町の担当者とはホームの空き状況や待機状況を伝えながら連携をとっている。また、町の学習センターを利用して、ホームの陶芸作品展を行う際にも協力を得る等、日頃から協力関係が築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護、身体拘束に関するパンフレットを掲示し、日頃入居者に対してのケア、言葉、気持ち又、外出されそうな時は、さり気なく声かけ、一緒に散歩するなど、職員の共有認識を図っている。	法人内に身体拘束廃止委員会が設置されており、マニュアルが整備されている。全ての職員は、法人内・ホーム内・外部で定期的に研修を受け、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。安全のために20時から7時半までは玄関等の施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待、心理的虐待、不適切なケアについて話合ったり、決してしない、してはならないという確認をしている。職員の疲労、ストレスが利用者に影響していないか把握、周辺徹底を行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議の中で、後見人制度について福祉事務所、包括支援センターの方よりDV、パンフレットで研修を行ったり、外部の研修会、セミナーにも参加、制度への理解を深めている。	現在、ホームの利用者に権利擁護に関する制度を活用している方はいない。入居契約の際に必ず、利用者および家族等に公的パンフレット等を用いて説明を行い、制度の案内を行っている。全ての職員が制度の概要を理解し、活用を支援できるように取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をされる前に相談や見学に来ていただき、家族、本人の意向等を聞きながら、十分説明を行い、不安や疑問など納得していただいた上で、契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の表情、雰囲気から本人の意見、思いを傾聴し、家族の声には常に耳を傾けており、慎重に対応している。苦情、相談があれば、看護部長、主治医交えて話し合いの場を持っている。家族会の出席が今回は少なく、家族会の運営を反映させたい。	家族等がホームを訪れた際に、最近の暮らしぶりを伝えながら意見や要望を伺うようにしている。利用者ごとの生活状況をまとめた「弘医荘たより」も2ヶ月に1回送付しており、ホームの実際を伝えて意見をいただくようにしている。家族会も年2回行われており、家族同士で話し合える機会も設けている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者、家族の思いを管理者、記録等で情報収集し、その中から日常運営に職員の意見や思いをプラスして運営に繋げている。	ホーム内での職員ミーティングが毎月行われており、ホームが抱える問題を全職員で検討している。ケアの均一化や業務の効率化、標準化等について話し合い、利用者が暮らしやすく職員が働きやすい環境づくりに努めている。管理者は、いつでも職員個別の相談にも応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体病院の基本に合わせ、向上心を持って資格修得すると、手当て等の支給ある。勤務表になるべく希望を取り入れて作成してもらっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し活き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	18歳～60歳までの性別関係なく採用。60歳以降再雇用ある。	ホームで働く職員に、性別や年齢の偏りはない。敷地内には託児所があり、小さい子供を持った職員でも安心して働けるように支援している。職員の休みや勤務時間等は、個々の希望や環境に応じて配慮されており、社会参加や自己実現の権利は十分に保障されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	病院管理者より定期的説明会実施。公的機関、介護事業者研修、外部から出張してもらい受講している。(運営推進会議の機会に)	利用者の人権を尊重することについて、法人全体での研修が年2回行われている。全職員は、日頃から利用者本位のケアを心がけ、言葉遣いや振る舞いに注意を払っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の意志が大事であり、声かけをしている。地域公的機関、部会出席、案内状等を吟味し研修している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	部会、筑前町、あらゆる訪問等を受け入れ、見学を通じ協力体制を取り、勉学中。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの相談、受付から利用に至ることが多いので、なるべく本人にも一緒に来て頂き、様々な思いを傾聴し、受け止める努力をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの理念、現状を説明し、家族の思いを受け止める努力をしている。最終的には本人が納得された上で利用される事が一番である。利用開始前に本人に会いに行くなど関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当法人の居宅支援事業所等があり、担当者との話し合い、相談を行い最良の方向性を検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩である事を常に念頭におき、喜怒哀楽を共感、理解、得意分野を発揮して、発揮していただける様、否定することなく、場面づくりに努力している。介護されるのではなく、入居者から学ばせて頂いているという姿勢を心がけている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活を家族と共に支え合い、家族のこだわり、苦しみ、喜びを受け止め、本人と家族がよりよい関係を築いていただける様、日々の暮らし、気づきを報告することによって、情報を共有し、共に本人を支えていく関係づくりに努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の了解を得て、地域の中での馴染みの場所、買物、運動会、文化祭など外出の支援に努めている。昔から利用されている美容院など外出、一人一人の生活習慣を尊重している。利用者の知人など面会に来られたり、継続的交流が出来る様支援している。	利用者が在宅時に利用していたスーパーや郵便局等、希望に応じて一緒に出かけている。お墓参りや美容院等、行き先によっては家族等に協力してもらい、本人の希望が叶うよう支援している。知人や友人がホームに来られても、ゆっくりと談話出来るよう配慮している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話コーナーでの会話、利用者同士の関係性を大切にし、心身の状態、気分、感情で日々変化が見られるので、職員間の情報を連携し、一人一人の利用者の役割を大事に受け止め、支え合う支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	心身状態、体調悪化で入院。契約が終了しても誕生会(本人)を招いたり、入院先にプレゼントを持って言ったり、本人、家族からも大いに喜ばれた。入院されても馴染みの職員が機会をつくって、面会に行ったり情報提供、連携を深めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中、関わりの中で一つ一つの言葉、表情を大事にし、本人の思い等把握に努力している。本人にとって将来をどう過ごしたいのか、本人の思いを家族を交え、検討している。	入居前に自宅や、病院へ訪問し本人や家族から情報収集を行っている。入居後はセンター方式を活用して日々の暮らしの中で思いや希望等を尋ねている。困難な場合は家族に尋ねたり、動きや表情を見ながら思いを汲み取っている。職員は情報を共有する為に申し送りノートを活用して、朝夕の申し送り時に伝達したり、毎月1回のミーティング時にも伝達を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの本人の生活歴、ライフスタイルを出来るだけ維持できるよう、コミュニケーションを多く取りながら、その人を取り巻く機関からも、情報提供を得るようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録を通じて、日常生活や心身状態を把握し、又、職員間での情報の共有にも努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の思いや意見を聞き、状態の把握に努め、職員間では情報を共有化し、個々の状態や希望を反映し、具体的に介護計画を作成している。	利用者担当制をとっており本人や家族、かかりつけ医と一緒にカンファレンスを行っている。3ヶ月から6ヶ月毎に計画書を作成し状況が変わった場合はその都度見直しを行い現状に即した計画書を作成している。情報を共有する為に、カンファレンスに出席できない職員は計画書を確認したらサインを行い周知徹底している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に体温表を用意し、血圧、体温、食事、排泄、入浴等身体的状況を確認。日々の生活様子、本人の言葉、ケアの気づき、具体的に記入、介護計画から記録へ落とす工夫に努めている。介護記録を基に介護計画の見直し、評価を実施、努力している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当法人の病院が隣接しており、受診又、他病院受診、送迎など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高める様にしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への方への支援の声かけを行ったり、消防署は避難訓練の実施、警察署には安否の見守りなどお願いしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の医療機関に2～4週間に一回、定期受診を行っている。異常時などには、その都度受診、家族に報告している。訪問診療に来てもらうケースもある。	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。事業所敷地内にある同一法人の病院は24時間対応を行っているため、本人、家族の希望で変更する利用者は多い。専門医への受診の同行は職員が行っており、受診後はご家族へ連絡したり、毎月の便りで報告を行っている。毎日法人看護部長や看護師長が交代で事業所に訪問し、利用者の健康状態の確認を行いかかりつけ医へ報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当法人である病院の看護部長や居宅部の師長が毎日GHに来られ、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行ってもらっている。24時間体制で適切な医療につなげている。訪問看護の協力も得ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に伴って、環境の変化による大きなダメージにつながらない様、家族とも相談しながら病棟との情報交換で状態把握に努め、早期退院できるよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の利用者がよりよく日々を送っていただく為に、主治医と共に家族、職員と今後の変化に備えての話し合い連絡を行っている。重度化、終末期に向けた意識確認、入居契約時、説明、同意書確認している。	入居前は敷地内にある同一法人の病院での終末の希望をされる利用者が多いが、入居し生活していく中で、ホームで終末をとの考えに変わる場合があり、同意書の検討を行っている。職員に対しては終末期の支援に関しての勉強を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期段階において、主治医、看護師に報告し、指示を受けている。緊急時の対応についてのマニュアル作成、周知徹底を図る様努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難時のマニュアル作成している。運営推進会議の中で、夜間設定で消防署立会いの元で避難訓練を行い、地域との協力体制を努力している。病院合同で避難訓練、消火器の使い方訓練。	年2回の避難訓練を行っており、1回は敷地内にある同一法人の病院と合同で避難訓練を行っている。消防署員の立会いの下、夜間想定で行っている。職員は避難場所の位置を確認している。備蓄品は病院に管理されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各々の人格を尊重し、平等に本人を傷つけないような心がけを行っている。誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないことの徹底と、そういった場面があればお互いに声かけを行う様、努力している。	職員は利用者と会話をする時には目線を合わせて傾聴したり、優しく対話している。利用者の立場に立って考えながら言葉かけを行う工夫をしている。更に接遇チェックシートを活用し自己点検を心掛けている。職員同士で声かけながら振り返り、事業所全体で利用者を尊重するように取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心がけ、自己決定しやすい声かけを日々心がけている。難聴の方にはメモ紙にて筆談、思いをくみ取るようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで生活できるよう、日々、その人らしさが出せるよう、環境づくりなどにも配慮しながら、職員側の都合で決めたり優先することのないよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回の移動美容車を利用したり、希望の美容室へ行かれる方もいる。気分転換に、外出時は化粧したり、眉カット、顔そりしたり、ボランティアによる、マニキュアも楽しんでもらっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事を取り、楽しい雰囲気での摂取できるよう、声かけなど行っている。配膳や食事の片付けも一緒に行っている。週に一度の調理の日には、入居者の好みなど献立に入れ、野菜の皮むきなど手伝ってもらっている。	職員は利用者と食事を一緒に楽しみながら摂っている。外部委託の料理が提供されているが、近隣の方や家族から野菜等を頂き、利用者の知恵を借りながら干し柿や梅干、梅酒を職員と一緒に楽しく作っている。また、利用者の能力に応じて野菜の皮むきや味付けお茶を注いだりできるように支援している。月に一度は外食の日を設けて、うどんや回転寿司を食べに行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院の管理栄養士が作成したバランスの取れた献立で、食事は提供している。毎日の食事摂取量をチェックし、記録又、バイタルや体重も記入し、スタッフがいつでも確認できるようにしている。夏場、ポカリスエットにしたりと支援。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声かけ見守りをしている。利用者の力を引き出しながら、一方的な誘導ではなく、最後の仕上げ、口腔内の清潔保持に努めている。義歯の方は毎晩ケースに保管し、週一回、ポリドント洗浄。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にし、その人にあったオムツ、パットを常日頃検討している。尿意のない利用者にも、時間を見はからって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。各々の排泄パターンを把握し、チェック表活用している。失敗などがあっても、プライバシーを傷つけないよう、さりげなく声かけ、介助している。	24時間の排泄チェック表を基に、排泄誘導介助を行っている。周りの方に分からないように耳元でさりげなく言葉かけを行っている。排泄がなかったときには時間を置いて言葉かけを行っている。おむつから紙パンツへと排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体温表、日常生活記録など活用、排便のコントロールに努めている。腹部マッサージ、水分補給、運動、散歩など適宜行っている。(下剤も使用)		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日々の入浴においてバスクリンを使用。入浴を楽しんでもらっている。主に午後入浴になっているが、個々に合わせ入浴の声かけを行い、準備なども一緒に行っている。入浴中はコミュニケーションを図り、楽しんでもらうと同時に、皮膚観察を行っている。入居者によっては、午後入浴が難しい方もいるので、場合によっては午前中も入浴する事がある。	2日に1回は入浴をするようにしており、希望があれば毎日入浴も可能である。入浴を拒否される方へは言葉かけを工夫しながら体調や思いを大切にし馴染の職員が介助を行っている。季節に応じてゆず湯などを使い楽しみながら入浴できる支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は活動を促し生活のリズムを整える様努めている。夜間何度もトイレに行かれたり、探し物されたり、ストレスの状態を把握。日中の午睡との関係把握。支援に努めている。眠剤で飲まれている方は睡眠状態、日中の生活の妨げになってないか、確認している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成、薬の内容を全職員が把握できる様、努めている。薬の処方や、容量が変更あったり、本人の状態変化がある時は、情報共有し、確認しあっている。「お薬について」の勉強会にも参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の得意な事、好きな事など把握して、調理の下ごしらえ、洗濯物たたみ、掃除、花植えなど本人が必要とされている事を感じて、張り合いが持てる支援をしている。又、編み物、読書など楽しみごと、気分転換の支援を行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月一回のバスハイクは、楽しみにされている。全員揃っての散歩は少なくなっているが、少人数での散歩、近隣の行事等参加など支援に努めている。	現在、事業所の改修工事のため、戸外への散歩に出かけるときには注意が必要であるが、普段は近くまで散歩に出かけている。敷地内の同一法人内にある売店への買い物に同行している。そのほかの場所に関してはご家族へ同行を依頼している。毎月バスハイクを行っており利用者は楽しみにしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人自身で、金銭管理されてる方はおられない。お金を支払う場面が少ないので、バスハイクでの支払い時、売店でおやつ購入時の支払いの場面を多く取り入れ、支援に努めている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば気兼ねなく利用できる様支援している。(場合によっては、職員が間にあって話す事もある)毎年、入居者全員、家族への年賀状、自筆で出される支援を行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓があり、外光も十分入る季節を感じられる造りになっている。季節の花、写真、陶芸作品などを飾り、居心地よく過ごせる様、家庭的なあたたかさを心がけている。	事業所は木造を基調とした平屋の建物であり、談話ルームにはゆったりと座れるソファを置かれている。天窓がいたるところにあり、優しい陽差しがリビングを包み込むように造られ利用者は快適に過ごせている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にはソファを置き、自由に過ごせる場所としている。又、玄関横のウッドデッキのテラスにはベンチを置いているので、天気の良い日には外に出て自由に過ごせる工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使用されていた家具、生活用品の持ち込みは全体的に少ないが、自作の陶芸作品や、写真、季節の花など、それぞれ暖かみのある居室となっている。	タンスやベッドは備え付けを用意されているが配置は使いやすいように移動可能である。布団やソファ等、使い慣れたものを持ち込み利用者の居心地良く過ごせるような居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	昨年12月、新築、引越し当時、混乱や行動の失敗が続き、何がわかりにくいのか、状況に合わせての環境整備に努めた。建物内部はバリアフリーで各個室、共同場所などに目印をつけたりしながら工夫している。自室、トイレなど、迷われる場面も見られる。さり気なく、声かけしながら混乱や失敗を防いでいる。		